

大樹で18日CAMUI型ロケット打ち上げ

【大樹】北大(道内3大学と4企業、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(札幌市、HASTIC)が開発を進めているCAMUI(カムイ)型ハイブリッドロケットの打ち上げ実験が18日、町内で行われる。大樹での実験は今年で5回目。新型機体では初となる実証試験について、開発メンバーのリーダーで北大大学院の永田晴紀助教授に聞いた。

(松村智裕)



実験内容を説明する永田助教授

開発メンバー 北大大学院・永田助教授に聞く

「これまでの実験との違いは、昨年3月に大樹で行った実験は到達高度が900メートルと小規模な打ち上げだったが、今回は約10倍の高度10キロに達する予定。推力は従

到達高度10キロ、推力400キロ…大規模に

実用化へ重要な一歩

新型機体で初の実証試験

来の約8倍となる4000キロ、機体全長は約2倍の3・6メートル。今回は打ち上げたロケットが海に落ちず、大樹漁協など多くの方に支

援していただいているので、ぜひ成功させたい。

先日、HASTIC

Cと米固ロケットプレイン社が技術協力契約を結んだ。CAMUI型ロケットによる人工衛星打ち上げ構想と

地上約1000メートルまで上昇させたロケットフライング社のジェット機からCAMUI型ロケットを飛ばし、さら

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

に地上3000メートルで人工衛星を放出する計画。2012年の実用化に向け、機体の

かる事業には誰も算入できない。私たちはポロ世代でない。宇宙産業を手がけるので、苦労があってもロケット開発に携わるのはやりがいがある。CAMUI型ロケットの製品化に向け、今年中にも関係大学、企業で材料育成の面でも10年、20年、新たに法人を立ち上げることを検討したい。



昨年10月の「宇宙フェス」(福岡市)で展示された「CAMUI型」ロケットの機体(左)のイラスト(右)